

令和 6 年度
北海道大学大学院農学院
修士課程（博士前期課程）

学生募集要項

北海道大学大学院農学院

◇目 次◇

| | |
|-------------------------------------|----|
| ・ 学生募集要項 | |
| 1 募集人員 | 1 |
| 2 学科試験（外国語及び専門科目） | 1 |
| 3 入学者選抜方法 | 4 |
| 4 出願資格 | 4 |
| 5 出願資格予備審査について | 5 |
| 6 出願書類 | 5 |
| 7 出願期間等 | 6 |
| 8 試験期日及び試験場 | 7 |
| 9 合格発表 | 7 |
| 10 入学料及び授業料について | 7 |
| 11 入学願書の記載について | 7 |
| 12 個人情報の取扱いについて | 7 |
| 13 その他 | 7 |
| ・ 試験成績の開示について | 8 |
| ・ 長期履修制度について | 9 |
| ・ 各フロンティアコース及びユニットの 教育理念と専門教育の内容 | 10 |
| ・ 農学院・指導教員一覧 | 12 |
| ・ 入学願書ほか | |

募集要項請求方法 …修士課程…

返信用封筒【角形2号（24cm×33.2cm）／郵便番号、住所、氏名を明記し、210円分の切手（速達希望者の場合は470円）を貼ったもの】を同封した封筒の表面左下欄に、「大学院農学院修士課程学生募集要項請求」と朱書きし、下記宛に請求すること。

<請求先>

〒060-8589

札幌市北区北9条西9丁目

北海道大学農学・食資源学事務部農学院教務担当窓口

令和6年度北海道大学大学院農学院
修士課程（博士前期課程）
学生募集要項

◆ 大学院農学院の教育理念 ◆

本学院は、先端的、学際的又は総合的な文理融合型の教育研究の実施を通じて、農学に関する基礎的又は専門的な素養を有し、かつ、食糧の安定供給、食の安全、地球環境保全、バイオマスの利活用等の人類共通の課題に対応することができる多様な知識及び判断力を有する人材の育成を図ることを目的とする。

1 募集人員

農学専攻……………142名

(生産フロンティアコース、生命フロンティアコース、環境フロンティアコース)

※ただし、令和6年度北海道大学大学院農学院修士課程【2次募集】入学試験実施分を含む。合格者が定員に達した場合、【2次募集】は実施しない可能性がある。

2 学科試験（外国語及び専門科目）

<外国語について>

TOEIC L&R 又は TOEFL iBT のスコア（令和3（2021）年9月1日以降に受験したものに限り）により英語能力を判定する。TOEIC L&R 600点未満、TOEFL iBT(Test Date Score) 62点未満の者は「不合格」と判定します。

<専門科目について>

以下の一覧表から2科目（科目(1)、科目(2)）を選択する。

- ① 科目(1)は志望ユニットの専門科目のうち、入学後の指導教員に対応する1科目を選択する。
- ② 科目(2)は科目(1)以外の専門科目（他のフロンティアコース科目も可）から選択する。
- ③ 指導教員及び学科試験科目一覧表

| コース名 | ユニット名 | 試 験 科 目 | | | | |
|----------|--------|---------|-----------------------|------------------------------|-----------|--|
| | | 教 員 | 専 門 科 目 名 (科 目 番 号) | 備 考 | | |
| 生産フロンティア | 農業植物科学 | 教授 | 金澤 章 | 植物遺伝資源学（25） | | |
| | | 講師 | 山田 哲也 | | | |
| | | 教授 | 貴島 祐治 | 植物育種学（24） | | |
| | | 准教授 | 小出 陽平 | | | |
| | | 教授 | 増田 税 | 植物病原学（29） | | |
| | | 講師 | 畑谷 達児 | | | |
| | 講師 | 中原 健二 | | | | |
| | | | 教授 | 久保 友彦 | 遺伝子制御学（1） | |
| | | | 准教授 | 小野寺康之 | | |
| | | | 助教 | 北崎 一義 | | |
| | | | 准教授 | 山岸 真澄 | 細胞工学（14） | |
| | | | 講師 | 犬飼 剛 | | |
| | 農業植物科学 | 助教 | マリア ステファニア ドウイティ | 植物ゲノム科学（27） | | |
| | | 客員准教授 | 厚見 剛 ※1 | 植物有用物質生産学（33） | | |
| | | 客員准教授 | 大木 健広 ※2 | 北海道農業生産基盤学 (植物ウイルス病学)（64） | | |

| | | | | | | |
|---------|----------|---------|------------------------------|----------------------------|--------------|--|
| | 作物生産生物学 | 准教授 | 秋野 聖之 | 植物病理学 (30) | | |
| | | 教授 | 藤野 介延 | 作物生理学 (17) | | |
| | | 講師 | 志村 華子 | | | |
| | | 教授 | 信濃 卓郎 | 作物栄養学 (26) | | |
| | | 准教授 | 渡部 敏裕 | | | |
| | | 助教 | 丸山 隼人 | | | |
| | | 教授 | 鈴木 卓 | 園芸学 (3) | | |
| | | 講師 | 実山 豊 | | | |
| | | 講師 | 柏木 純一 | 作物学 (16) | | |
| | | 助教 | 中島 大賢 | | | |
| | | 客員教授 | 野田 高弘 ※2 | 北海道農業生産基盤学 (植物代謝学) (66) | | |
| | 農業経済学 | 教授 | 山本 康貴 | 農業政策学 (52) | | |
| | | 助教 | 赤堀 弘和 | | | |
| | | 教授 | 東山 寛 | 農業経営学 (51) | | |
| | | 准教授 | 小松 知未 | | | |
| | | 教授 | 近藤 巧 | 開発経済学 (6) | | |
| | | 准教授 | 合崎 英男 | | | |
| | | 教授 | 板橋 衛 | 協同組合学 (11) | | |
| | | 教授 | 坂爪 浩史 | 食料農業市場学 (34) | | |
| | | 准教授 | 清水池義治 | | | |
| | 生物生産工学 | 教授 | 野口 伸 | ビークルロボティクス (55) | | |
| | | 准教授 | 岡本 博史 | | | |
| | | 助教 | カト` 栞` ナアロン | | | |
| | | 教授 | 小関 成樹 | 食品加工工学 (22) | | |
| | | 助教 | 小山 健斗 | | | |
| | | 教授 | 岩渕 和則 | 循環農業システム工学 (19) | | |
| | | 准教授 | 清水 直人 | | | |
| | | 助教 | 伊藤 貴則 | | | |
| | 生命フロンティア | 畜産科学 | 教授 | 小池 聡 | 動物機能栄養学 (47) | |
| | | | 助教 | 鈴木 裕 | | |
| 准教授 | | | 川原 学 | 遺伝繁殖学 (2) | | |
| 助教 | | | 唄 花子 | | | |
| 教授 | | | 上田宏一郎 | 畜牧体系学 (46) | | |
| 准教授 | | | 三谷 朋弘 | | | |
| 助教 | | | 呉 成真 | | | |
| 教授 | | | 西邑 隆徳 | 細胞組織生物学 (15) | | |
| 准教授 | | | 小林 謙 | | | |
| 教授 | | | 玖村 朗人 | 応用酪農食品科学 (5) | | |
| 准教授 | | | 若松 純一 | 食肉科学 (20) | | |
| 助教 | | | 早川 徹 | | | |
| 客員教授 | | 花島 大 ※2 | 北海道農業生産基盤学 (畜産環境保全学) (67) | | | |
| 応用分子生物学 | | 教授 | 浅野眞一郎 | 応用分子昆虫学 (4) | | |
| | | 准教授 | 佐藤 昌直 | | | |
| | | 教授 | 尾之内 均 | 分子生物学 (57) | | |
| | | 教授 | 奥山 正幸 | 分子酵素学 (56) | | |
| | | 助教 | 田上 貴祥 | | | |

| | | | | | |
|----------|----------|---------|-------------------------|----------------|--|
| | 応用生物化学 | 教 授 | 森 春英 | 生物化学 (40) | |
| | | 准教授 | 佐分利 亘 | | |
| | | 教 授 | 吹谷 智 | 基礎微生物学 (10) | |
| | | 助 教 | 前田 智也 | | |
| | | 教 授 | 園山 慶 | 食品機能化学 (23) | |
| | | 准教授 | 加藤 英介 | | |
| | | 助 教 | 逢坂 文那 | | |
| | | 教 授 | 石塚 敏 | 食品栄養学 (21) | |
| | | 准教授 | 比良 徹 | | |
| | | 教 授 | 橋本 誠 | 生態化学生物学 (37) | |
| | | 准教授 | 村井 勇太 | | |
| | | 講 師 | 崎浜 靖子 | | |
| | | 准教授 | 江澤 辰広 | 根圏制御学 (12) | |
| | | 教 授 | 松浦 英幸 | 生物有機化学 (43) | |
| | | 准教授 | 北岡 直樹 | | |
| | | 准教授 | 福士 幸治 | 生物情報分子解析学 (42) | |
| | | 客員教授 | 田村 具博 ※1 | 基礎環境微生物学 (9) | |
| | | 客員教授 | 湯本 勳 ※1 | | |
| | | 客員教授 | 鎌形 洋一 ※1 | | |
| | | 客員准教授 | 森田 直樹 ※1 | | |
| 客員准教授 | 北川 航 ※1 | | | | |
| 客員准教授 | 菊池 義智 ※1 | | | | |
| 客員准教授 | 加藤創一郎 ※1 | | | | |
| 環境フロンティア | 生態・体系学 | 教 授 | 荒木 仁志 | 動物生態学 (48) | |
| | | 助 教 | 坂田 雅之 | 生物多様性学 (69) | |
| | | 准教授 | 長谷川英祐 | 進化・行動生態学 (35) | |
| | | 助 教 | 加藤 克 | 博物標本管理学 (54) | |
| | | 助 教 | 東 隆行 | 植物分類・保全学 (31) | |
| | | 助 教 | 首藤光太郎 | | |
| | | 教 授 | 大原 昌宏 | 昆虫体系学 (13) | |
| | | 准教授 | 吉澤 和徳 | | |
| | 助 教 | 松村 洋子 | | | |
| | 地域環境学 | 准教授 | 山本 忠男 | 農業土木学 (53) | |
| | | 教 授 | 平野 高司 | 生態環境物理学 (38) | |
| | | 講 師 | 岡田 啓嗣 | | |
| | | 講 師 | 山田 浩之 | | |
| | | 教 授 | 濱本 昌一郎 | 土壌物理学 (50) | |
| | | 教 授 | 当真 要 | 土壌学 (49) | |
| | | 准教授 | 中原 治 | | |
| | | 講 師 | 倉持 寛太 | | |
| | 客員教授 | 根本 学 ※2 | 北海道農業生産基盤学 (農業気象学) (68) | | |
| | 森林資源利用学 | 教 授 | 浦木 康光 | 木材化学 (59) | |
| | | 講 師 | 重富 顕吾 | | |
| 助 教 | | 鈴木 菜 | | | |
| 教 授 | | 玉井 裕 | 林産製造学 (63) | | |
| 准教授 | | 幸田 圭一 | | | |

| | | | | | |
|-----------------------------|----------|-------|-------|-------------|--|
| | 森林資源利用学 | 教授 | 佐野 雄三 | 樹木生物学 (18) | |
| | | 准教授 | 荒川 圭太 | | |
| | | 教授 | 佐々木貴信 | 木材工学 (60) | |
| | | 准教授 | 澤田 圭 | | |
| | 森林・緑地管理学 | 教授 | 中村 太士 | 生態系管理学 (39) | |
| | | 准教授 | 森本 淳子 | | |
| | | 教授 | 山田 孝 | 流域砂防学 (62) | |
| | | 准教授 | 笠井 美青 | | |
| | | 助教 | 桂 真也 | | |
| | | 教授 | 庄子 康 | 森林政策学 (36) | |
| | | 准教授 | 愛甲 哲也 | 花卉学・造園学 (7) | |
| | | 講師 | 松島 肇 | 造林学 (45) | |
| | | 特任教授 | 澁谷 正人 | | |
| | 講師 | 斎藤 秀之 | | | |
| | | 講師 | 宮本 敏澄 | | |
| 全フロンティアコース共通 ※科目(2)としてのみ選択可 | | | | 有機化学 (61) | |

※1 産業技術総合研究所北海道センターとの連携分野

※2 農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センターとの連携分野

出願にあたっては、指導を希望する教員に受験する旨を直接連絡し、了承を得ておくことが望ましい。

◎網掛けの教員については、今回、学生を募集しないので、希望指導教員名として記載できない。

ただし、網掛けの教員に係る専門科目であっても、専門科目(2)として選択することができる。

3 入学者選抜方法

学科試験(外国語(TOEIC等スコア)及び専門科目)、面接及び出身大学等の長から提出される成績を総合して合格者を決定する。

4 出願資格

- (1) 大学を卒業した者及び令和6年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により、学士の学位を授与された者及び令和6年3月までに授与見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって(5)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)

- (9) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程若しくは我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めたる者
- (10) 本学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者で、令和6年3月31日までに22歳に達する者*
- *高等専門学校・短期大学の卒業生、専修学校・各種学校の卒業生、外国大学日本分校・外国人学校の卒業生など大学卒業資格を有していない者

5 出願資格予備審査について

「4 出願資格」の(3)～(10)のいずれかに該当する志願者は、出願期間の前に出願資格に関する予備審査を行う。**外国の教育課程を修了している外国人留学生は必ず予備審査が必要となる**ので、下記期間内に「6 出願書類」一式を提出すること。ただし、検定料及びTOEIC又はTOEFLの公式認定証等はこの期間に提出は不要。

出願資格予備審査書類提出期間

令和5年6月14日(水)から令和5年6月20日(火)まで

- ※出願資格の(9)及び(10)により出願する場合は、出願書類一式に下記の書類を添付すること。
- ⇒ (9)の場合…「入学資格審査申込書」、「成績証明書」、「志望理由書」
 - ⇒ (10)の場合…「入学資格審査申込書」、「研究歴証明書」、「成績証明書」、「志望理由書」
- 【「入学資格審査申込書」・「研究歴証明書」・「志望理由書」については所定用紙があるので請求すること。】
- ※ 出願資格予備審査の結果については、令和5年6月30日(金)にE-mailにて通知予定。その際、出願資格を認められた者は、「検定料」及び「TOEIC又はTOEFLの公式認定証等」を通常の出願期間(令和5年7月3日から7月7日)の期限内必着で提出すること。
- ※ 出願資格予備審査のために提出した書類は、正式な出願書類の一部として扱う。ただし、期間内に検定料を納入しない場合は、願書を受理しない。

6 出願書類

| | | |
|---|--|---|
| <input type="checkbox"/> 入学願書 <input type="checkbox"/> 受験票 <input type="checkbox"/> 写真票 | | 綴じ込みの用紙によること。外国人留学生は「履歴書」も添付。 各所定の欄に写真(出願前3か月以内撮影。縦4cm×横3cm。上半身正面脱帽)を貼付すること。 |
| <input type="checkbox"/> 検定料 30,000円 ※国費外国人留学生及び中国政府派遣留学生及び総長奨励金留学生は、検定料の払込を要しない。 | | イ 検定料の払込は綴じ込みの専用振込用紙で郵便局・銀行の窓口で振り込み、その検定料受付証明書を貼付用紙の所定の欄に貼り付けて提出すること。 ロ 検定料受付証明書を郵便局・銀行の窓口から受け取る際には、必ず「受付局日附印」を確認すること。「受付局日附印」が押印されていないと願書は受理できない。 ハ 検定料は、普通為替や現金では受理できないので、必ず郵便局・銀行の窓口で振り込みの手続きをすること。ATM(現金自動預払機)は使用不可。 ニ 出願書類を受理した後は、次の場合を除き、いかなる理由があっても払込済の検定料は返還しない。 [検定料の返還ができるもの] ①検定料を払い込んだが出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった)場合 ②検定料を誤って二重に払い込んだ場合 ③検定料の納付を要しない者が払い込んだ場合 ネット出願システムによりクレジットカード等による支払が可能である。 |

| | | |
|--------------------------|--|--|
| | | 希望者は事前に農学・食資源学事務部農学院教務担当に問い合わせをすること。なお、ネット出願システム利用の場合は、検定料に加えて事務手数料(500円)を負担する必要がある。 |
| <input type="checkbox"/> | 成績証明書 | 出身大学等の長が発行するもの。 証明書の原本が日本語・英語以外の言語で書かれている場合は、「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 |
| <input type="checkbox"/> | 卒業（見込）証明書 | 出身大学等の長が発行するもの。 証明書の原本が日本語・英語以外の言語で書かれている場合は、「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 ◎ <u>中華人民共和国（香港、マカオを除く）の大学を卒業、または卒業見込みの者は、卒業（見込）証明書に加えて、以下の書類を提出してください。</u> 既 卒 者... a 学歴証書電子登録票（教育部学历证书电子注册备案表） b 卒業証書（毕业证书）の原本証明及び学位証書（学位证书）の原本証明 卒業見込者... a オンライン在籍認証レポート（教育部学籍在线验证报告） 上記のうち、書類 a は中華人民共和国教育部認証システム（中国高等教育学历证书查询 http://www.chsi.com.cn/xlcx/bgys.jsp ）より取得してください。また、提出時点で Web 認証の有効期限が15日以上残っていることを確認してください。 |
| <input type="checkbox"/> | 学位授与（見込）証明書 | 出願資格(2)により出願する場合は提出すること。 |
| <input type="checkbox"/> | TOEIC 又は TOEFL の公式認定証等（令和3（2021）年9月1日以降に受験したもの）の写し | 提出可能なもの ①TOEIC Listening & Reading Test（公開テスト）のOfficial Score Certificateの写し、またはデジタル公式認定証のPDFファイルをプリントアウトしたもの ②TOEFL iBTのTest Taker Score Reportの写し ※TOEIC-IP、TOEIC Speaking & Writing Tests、TOEIC Speaking Test、TOEIC Bridge Test 及び TOEFL-ITP は認められません。 ※出願時に公式認定証等が間に合わない場合は、TOEIC L&R 又は TOEFL iBT の受験票等の写しを提出し、令和5年7月31日（月）までに公式認定証等の写しを提出すること（必着（期限厳守））。 |
| <input type="checkbox"/> | 選択受験科目等記入票 | 綴じ込みの用紙に記入して提出すること。 |
| <input type="checkbox"/> | 受験票送付用封筒 | 綴じ込みの封筒に志願者の郵便番号・住所・氏名を記入し、郵便切手344円分を貼付し提出すること。※敬称の「様」は訂正しないで下さい。 |
| <input type="checkbox"/> | 連絡受信先シール | 綴じ込みの用紙に記入して提出すること。 |
| <input type="checkbox"/> | 在留カード又はパスポートのコピー | 外国人留学生のみ提出すること。 |

7 出願期間等

- (1) 出願期間：令和5年7月3日（月）から令和5年7月7日（金）まで。
願書受理は午前9時から午後5時までとする。
郵送の場合は、封筒に「大学院入学願書在中」と朱書きし、簡易書留で送付すること（願書受理期間内必着）。
- (2) 提出先：農学・食資源学事務部農学院教務担当窓口

8 試験期日及び試験場

| 月 日 | 時 間 | 試 験 区 分 | | 試 験 場 |
|------------------|-------------|---------|-----------------|-------------------------------------|
| 令和5年 8月17日(木) | 13:00~15:30 | 専門科目 | 各フロンティアコース別に行う。 | 北海道大学 大学院農学院 札幌市北区 北9条西9丁目 |
| 8月18日(金) | 13:00~ | 面接 | | |

9 合格発表

令和5年9月1日(金)午後4時(予定)農学院正面玄関ロビーに発表し、同時に本人宛通知書を発送する。電話等による可否の問い合わせには応じない。

10 入学料及び授業料について

(1) 入学料：282,000円

(2) 授業料：前期分267,900円(年額535,800円)

注) 上記の金額は予定額であり、入学時及び在学時に改定が行われた場合には改定時から新たな金額が適用される。

11 入学願書の記載について

入学願書の「学歴及び職歴欄」は高等学校卒業以降の履歴をもれなく記載すること。入学後、履歴中に虚偽の事項を記載し又は当然記載すべき事項を記入しなかったことが判明した場合は、入学を取り消すことがある。

12 個人情報の取扱いについて

- ・ 本学では、出願書類に記載されている氏名、住所その他の個人情報は、入学者選抜及び合格発表並びに入学手続きを行うために利用する。また、同個人情報は、合格者のみ入学後の教務関係(学籍、修学指導等)、学生支援関係(健康管理、奨学金申請等)、授業料等に関する業務を行うために利用する。
- ・ 個人情報のうち、氏名、住所に限って、北大フロンティア基金及び本学関連団体である北海道大学体育会からの連絡を行うために利用する場合がある。
- ・ なお、上記以外には利用しない。

13 その他

- ・ 身体に障害がある場合は、受験上特別な配慮を必要とすることがあるので、令和5年7月7日(金)までに農学・食資源学事務部農学院教務担当に申し出ること。
- ・ 入学願書を受理した者には、令和5年7月下旬までに受験票を発送する。
- ・ 過去問題は、前年度実施の専門科目について、一人2科目まで農学・食資源学事務部農学院教務担当窓口でのみコピーの配付を行う。

令和5年6月

北海道大学大学院農学院

郵便番号 060-8589

住 所 札幌市北区北9条西9丁目

電 話 011-706-2422/4119

メールアドレス kyomu@agr.hokudai.ac.jp

◆試験成績の開示について◆

本学院では、**不合格者本人からの請求**に基づき令和6年度修士課程（博士前期課程）に係る試験成績について、次の要領により開示します。

| | |
|---------------|---|
| 開示方法 | 郵便による請求に基づき書面で回答します。 |
| 開示内容 | 試験成績 ・科目ごとの得点又は合否 ・面接試験の結果 |
| 請求者 | 受験者である本人 ただし、1科目でも受験しなかった者については、試験成績を開示できません。 |
| 本人の確認 請求方法 | 受験票により確認します。 角形2号（24 cm×33.2 cm）の返信用封筒及び受験票を同封の上、郵便で請求してください。 ※返信用封筒には、555 円分の切手（書留料を含む）を貼り、郵便番号、住所、氏名を明記してください。 ※請求封筒の表（左下）には、「農学院修士課程（博士前期課程）成績請求」と朱書してください。 |
| 請求期間 | 令和5年10月2日（月）～10月13日（金）〈消印有効〉 |
| 請求先 | 〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学農学・食資源学事務部農学院教務担当 |

◆長期履修制度について◆

1. 長期履修の趣旨

長期履修制度とは、学生が職業を有している等（介護・育児等を含む。）の事情により、標準修業年限（修士課程2年、博士後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修したい旨を申し出たときは、個別に審査のうえ、その計画的な履修（以下「長期履修」といいます。）を認めることができる制度です。

2. 長期履修の対象者

次の各号のいずれかの事由に該当する者で、かつ、当該事由により、学業に専念できないため、課程修了に要する学修（研究）計画年数を予め長期に設定することを希望する者が申請できます。

- (1) 官公庁、企業等に在職している者（給与の支給を受け、職務を免除されている者を除く。）又は自ら事業を行っている者等フルタイムの職業に就いている者
- (2) アルバイト、パートタイム等の職業に就いている者で、その負担により修学に重大な影響がある者
- (3) 育児、親族の介護等前2号に準ずる負担により、修学に重大な影響がある者
- (4) 視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由その他の障がいを有している者で、研究科等において、その障がいにより長期にわたり修学に重大な影響があると認められた者

3. 長期履修期間

長期履修による修業年限の期間は、修士課程にあつては4年以内、博士後期課程にあつては6年以内で、年を単位として申請することができます。

また、長期履修を認められた学生が在学できる年限は、修士課程の場合は認められた長期履修期間に2年を加えた期間まで、博士後期課程の場合は標準修業年限の学生と同じく6年間です。

なお、大学院農学院において休学を許可することができる期間は、長期履修学生も標準修業年限の学生と同じく修士課程は2年間、博士後期課程は3年間です。

4. 長期履修の手続き等

長期履修を申請する場合は、次の①～③の書類を入学願書に添えて提出してください。

申請用紙は、農学・食資源学事務部農学院教務担当窓口にて受け取ってください。

- ① 長期履修申請書（様式1）
- ② 長期履修計画書（様式2）
- ③ 長期履修が必要であることを証明する書類等

審査結果については、学院長から申請者あてに通知します。

5. 長期履修期間の短縮又は延長

大学院農学院において必要と認めるときは、長期履修期間の短縮又は延長を、在学する課程においていずれか1回に限り認めることができます。

(1) 在学期間の短縮

長期履修期間の短縮を認めることのできる期間は、修士課程にあつては、4年から3年への短縮（1年短縮）の場合のみです。また、短縮の申請は変更後の修了年度の前年度に行う必要があります。

(2) 在学期間の延長

長期履修期間の延長を申請することもできますが、最終学年では申請できません。また、長期履修期間は、修士課程は4年を超えることはできません。

(3) 在学期間の短縮又は延長の場合の授業料は、再計算されます。いずれも在学期間に応じ過不足の調整がなされますが、既納の授業料は返還されません。

6. 授業料の取扱い

長期履修が認められた者の授業料は、標準修業年限に納付すべき授業料の額（修士課程：年額×2年、博士後期課程：年額×3年）を長期履修が認められた年数で除した額を年額として決定します。なお、授業料の改定又は長期履修期間の変更が許可された場合等は、その都度再計算します。ただし、納入済みの授業料を遡って調整することはありません。

7. その他

長期履修の申請は、入学時の他に、2年次進級時にも行うことができます。ただしその場合、授業料の総額が入学前に長期履修を申請した場合と比べて増額となりますので、ご注意願います。（最終年次での申請はできません。）

◆各フロンティアコース及びユニットの教育理念と専門教育の内容◆

1. 生産フロンティアコース

作物等の植物資源の機能開発と利用を図り、それら資源の持続的な再生産を可能にする技術と、有効な社会制度や流通利用システムの確立を図る教育・研究を通して、人類の生存に不可欠な食料等の生産に貢献する人材を養成する。

(1) 農業植物科学ユニット

植物科学を基盤に置いて、環境と調和した新しい農業生産への貢献をめざす。高等植物からウイルスに至る研究材料を対象として、未知の生物機能の解明およびそれに基づく新たな生物機能の開発を行う。複雑な生物学的メカニズムに向き合うことのできる柔軟な考え方、その解析に求められる広範な定性・定量的手法に関して総合的な教育を行う。

(2) 作物生産生物学ユニット

食料の生産および保護に関する基礎的、応用的教育研究を行う。食用および園芸作物を中心とした多様な植物の生産機能を作物学的ならびに生理学的に解明するとともに、病理学的、栄養学および微生物学的な手法により、多様な環境条件下での植物の生産能力を開発し、資源の効率的利用と持続的生産に関する教育を行う。

(3) 農業経済学ユニット

食料、資源、環境など人類生存の社会基盤に関わる諸問題について、経済学をはじめとする社会科学による教育を行う。フードシステムの展開と食の安全性、持続的農業生産システムの構築、環境問題を考慮した循環型農業の形成、農業・農村の多面的機能を維持するための活動や政策、世界の人口・食料問題等に関する理論を体系的に習得し、分析能力を養う。

(4) 生物生産工学ユニット

食料の生産から利用までを主として物理学的側面から考究し、環境・人間・社会を包括する持続的農業生産利用システムの構築を目指すために、食料生産手段、農産物加工貯蔵法およびバイオマス資源の利用と管理法について、環境・エネルギー・人間労働・食料安全・持続的食料供給・物質循環などの面での解析と新技術開発についての教育を行う。

2. 生命フロンティアコース

生物の機能・特性の科学的解明と高度な活用を図り、食料（生物）資源の安全・安定供給、生物変換による高付加価値化、健康増進等を図る教育・研究を通して、食と健康の維持増進に貢献できる人材を養成する。

(1) 畜産科学ユニット

家畜の生産から生産物の利用までの過程に含まれる技術の改良並びにそれらを支える基礎理論について、遺伝子、分子、細胞、組織、個体、群レベルで研究する。形質発現遺伝子調節機構、生殖生理機構、消化・代謝生理機能、土地基盤生産システム、生体組織の形態形成機構および生理調節機構、畜産食品の機能性と安全性に関する教育を行う。

(2) 応用分子生物学ユニット

生物は生命体であり、その特性は自己複製を行うことである。各種の生物は、自己複製を行うとともに、新陳代謝を行い、環境に適応しながら生命体を維持していくが、これらの生命体維持の上で重要な役割を担う複雑な遺伝子発現機構やタンパク質機能発現の解明を行うとともに、その成果を生物生産の場に応用するための教育を行う。

(3) 応用生物化学ユニット

微生物・植物・動物の生理とその制御の分子機構に関して、生物間相互作用や環境への影響も含めて教育研究を行う。有機化学、生化学、分子細胞生物学、組織化学、生理学的手法やバイオインフォマティクス等を活用して、食品を通じたヒトの健康増進、生物生産や環境制御に寄与する技術開発、機能性食品素材や新素材開発等への応用を図る教育を行う。

3. 環境フロンティアコース

地域の農業・森林資源の特性解明、管理、保全と多面的利用、および環境調和、生態系の修復、防災・減災等を図る教育・研究を通して、生物多様性と自然生態系の持続的利用に貢献できる人材を養成する。

(1) 生態・体系学ユニット

自然環境や農耕地における動物・植物の多様性を生態学、行動学、分類学、系統学、遺伝学の観点から説明するとともに、種間の相互作用や生物の生活史・行動・形態形質の進化過程を探求する。応用面として、絶滅が危惧される種、個体群、群集の保全と管理、および生物標本の維持・管理と利用に関する教育研究を行う。

(2) 地域環境学ユニット

基盤的な自然環境要素である土壌・水・大気の保全と高度利用、要素間の物質循環とエネルギーフロー、生物を含めた要素間の相互作用の解明、総合的な自然環境情報の効率的取得・解析を通じて、良質な地域環境基盤の創成と持続的な地域社会の形成に資する教育を行う。

(3) 森林資源利用学ユニット

木材を中心とした木質バイオマス及びきのこの等の特用林産物の新たな有効利用と加工技術の高度化、ならびにそれら資源の持続的・効率的な生産に資するための教育を、植物学、材料力学、構造力学、菌学、有機化学、生化学等に立脚して行う。

(4) 森林・緑地管理学ユニット

陸域における最大の環境資源である森林・緑地の機能を自然科学的および社会科学的手法を活用して解明し、森林資源の育成・保全、新たな多目的管理手法の構築、森林・緑地を取り巻く流域圏を対象とした自然再生・生態系修復技術の確立、地表侵食と水土砂災害の軽減、そして森林林業政策および緑地計画について教育を行う。

農学院・指導教員一覧

令和5年4月1日

◆生産フロンティアコース

| ユニット名 | 教員名 (専門分野) | | |
|-------------------------------------|--|---|---|
| 農業植物科学 | 教授 金澤 章 (植物遺伝資源学) 貴島 祐治 (植物育種学) 久保 友彦 (遺伝子制御学) ☆増田 税 (植物病原学) | | |
| | 准教授 山岸 真澄 (細胞工学) 小野寺康之 (遺伝子制御学) 小出 陽平 (植物育種学) | | |
| | 客員准教授 厚見 剛 (連) (植物有用物質生産学) 客員准教授 大木 健広 (連) (北海道農業生産基盤学 (植物ウイルス病学)) | | |
| | 講師 犬飼 剛 (細胞工学) 中原 健二 (植物病原学) 畑谷 達児 (植物病原学) 山田 哲也 (植物遺伝資源学) | | |
| | 助教 北崎 一義 (遺伝子制御学) マリア ステファニト ヲイヤンティ (植物ゲノム科学) | | |
| | 作物生産生物学 | 教授 信濃 卓郎 (作物栄養学) 鈴木 卓 (園芸学) 藤野 介延 (セ) (作物生理学) | |
| | | 客員教授 野田 高弘 (連) (北海道農業生産基盤学 (植物代謝学)) | |
| | | 准教授 秋野 聖之 (植物病理学) 渡部 敏裕 (作物栄養学) | |
| | | 講師 柏木 純一 (作物学) 志村 華子 (作物生理学) | |
| | | 実山 豊 (園芸学) | |
| | | 助教 中島 大賢 (作物学) 丸山 隼人 (作物栄養学) | |
| | | 農業経済学 | 教授 近藤 巧 (開発経済学) 坂爪 浩史 (食料農業市場学) 板橋 衛 (協同組合学) 東山 寛 (農業経営学) 山本 康貴 (農業環境政策学) |
| | | | 准教授 合崎 英男 (開発経済学) 清水池義治 (食料農業市場学) |
| 助教 小松 知未 (農業経営学) 赤堀 弘和 (農業環境政策学) | | | |
| 生物生産工学 | | | 教授 岩渕 和則 (循環農業システム工学) 小関 成樹 (食品加工工学) 野口 伸 (ピークルロボティクス) |
| | 准教授 岡本 博史 (ピークルロボティクス) 清水 直人 (セ) (循環農業システム工学) | | |
| | 助教 小山 健斗 (食品加工工学) リカルト オスピナ アラルコン (ピークルロボティクス) 伊藤 貴則 (循環農業システム工学) | | |

◆生命フロンティアコース

| ユニット名 | 教員名 (専門分野) | |
|---|--|--|
| 畜産科学 | 教授 上田宏一郎 (畜牧体系学) 玖村 朗人 (セ) (応用食品科学) 小池 聡 (動物機能栄養学) ☆西邑 隆徳 (細胞組織生物学) | |
| | 客員教授 花島 大 (連) (北海道農業生産基盤学 (畜産環境保全学)) | |
| | 准教授 川原 学 (遺伝繁殖学) 小林 謙 (細胞組織生物学) | |
| | 助教 三谷 朋弘 (畜牧体系学) 若松 純一 (食肉科学) 呉 成真 (畜牧体系学) 鈴木 裕 (動物機能栄養学) 唄 花子 (遺伝繁殖学) 早川 徹 (食肉科学) | |
| | 応用分子生物学 | 教授 浅野眞一郎 (応用分子昆虫学) 尾之内 均 (分子生物学) 奥山 正幸 (分子酵素学) |
| | | 准教授 佐藤 昌直 (応用分子昆虫学) |
| | | 助教 田上 貴祥 (分子酵素学) |
| | | 応用生物化学 |
| | 准教授 江澤 辰広 (根圏制御学) 加藤 英介 (食品機能化学) 村井 勇太 (生態化学生物学) 北岡 直樹 (生物有機化学) 佐分利 亘 (生物化学) 比良 徹 (食品栄養学) ☆福士 幸治 (生物情報分子解析学) | |
| | 講師 崎浜 靖子 (生態化学生物学) | |
| | 助教 逢坂 文那 (食品機能化学) 前田 智也 (微生物生理学) | |
| 客員教授 鎌形 洋一 (連) (基礎環境微生物学) 客員教授 田村 具博 (連) (基礎環境微生物学) 客員教授 湯本 勳 (連) (基礎環境微生物学) 客員准教授 加藤創一郎 (連) (基礎環境微生物学) 客員准教授 菊池 義智 (連) (基礎環境微生物学) 客員准教授 北川 航 (連) (基礎環境微生物学) 客員准教授 森田 直樹 (連) (基礎環境微生物学) | | |

◆環境フロンティアコース

| ユニット名 | 教員名 (専門分野) | |
|----------|------------|--|
| 生態・体系学 | 教授 | 荒木 仁志 (動物生態学) 大原 昌宏 (博) (昆虫体系学) |
| | 准教授 | 長谷川英祐 (進化・行動生態学) 吉澤 和徳 (昆虫体系学) |
| | 助教 | 東 隆行 (七) (植物生態・体系学) 加藤 克 (七) (博物館学・標本学) 首藤 光太郎 (博) (植物生態・体系学) 松村 洋子 (昆虫体系学) 坂田 雅之 (生物多様性学) |
| 地域環境学 | 教授 | 濱本昌一郎 (土壤保全学) 当真 要 (土壤学) 平野 高司 (生態環境物理学) |
| | 客員教授 | 根本 学 (北海道農業生産基盤学 (農業気象学)) |
| | 准教授 | 中原 治 (土壤学) 山本 忠男 (農業土木学) |
| | 講師 | 岡田 啓嗣 (生態環境物理学) 倉持 寛太 (土壤学) 山田 浩之 (生態環境物理学) |
| 森林資源利用学 | 教授 | 浦木 康光 (木材化学) 佐々木貴信 (木材工学) 佐野 雄三 (樹木生物学) |
| | 准教授 | 玉井 裕 (林産製造学) 荒川 圭太 (樹木生物学) 幸田 圭一 (林産製造学) 澤田 圭 (木材工学) |
| | 講師 | 重富 顕吾 (木材化学) |
| | 助教 | 鈴木 栞 (木材化学) |
| 森林・緑地管理学 | 教授 | 庄子 康 (森林政策学) ☆中村 太士 (生態系管理学) 山田 孝 (流域砂防学) |
| | 特任教授 | 澁谷 正人 (造林学) |
| | 准教授 | 愛甲 哲也 (花卉・緑地計画学) 笠井 美青 (流域砂防学) 森本 淳子 (生態系管理学) |
| | 講師 | 斎藤 秀之 (造林学) 松島 肇 (花卉・緑地計画学) 宮本 敏澄 (造林学) |
| | 助教 | 桂 真也 (流域砂防学) |

☆ は、令和6年3月31日退職予定者。

◎ 網掛けの教員については、今回、学生を募集しないので、留意すること。

氏名右横に記した凡例：(セ)北方生物圏フィールド科学センター、(博)総合博物館、(連)大学院連携分野